江畑謙介

21世紀の特殊部隊

上《特殊作戦篇》

並木書房

000
H66
996

江畑謙介

21世紀の特殊部隊

上《特殊作戦篇》

江苏工业学院图书馆
藏书章

江畑謙介（えばた・けんすけ）
1949年生まれ。上智大学大学院理工学研究科機械工学専攻。博士後期課程修了。1983年～2001年英国の防衛専門誌『ジェーンズ・ディフェンス・ウイークリー』通信員。95年スウェーデンのストックホルム国際平和研究所（SIPRI）客員研究員。99年より防衛調達審議会議員。2000年より内閣官房情報セキュリティ専門調査会委員。2001年より経済産業省産業構造審議会安全保障貿易管理小委員会委員。著書に『最新・アメリカの軍事力』（講談社現代新書）『安全保障とは何か』（平凡社新書）、『インフォメーション・ウォー』（東洋経済）、『情報テロ』（日経BP社）、『殺さない兵器』（光文社）、『兵器と戦略』（朝日選書）、『2015：世界の紛争予測』（時事通信社）、『使える兵器、使えない兵器　上下』『兵器の常識・非常識　上下』『こうも使える自衛隊の装備』『強い軍隊、弱い軍隊』『これからの戦争・兵器・軍隊　上下』（共に並木書房）など多数。

21世紀の特殊部隊〈上巻〉
—特殊作戦篇—

2004年7月5日　印刷
2004年7月15日　発行

著　者　江畑謙介
発行者　奈須田若仁
発行所　並木書房
〒104-0061 東京都中央区銀座1-4-6
電話(03)3561-7062　fax(03)3561-7097
http://www.namiki-shobo.co.jp
印刷　モリモト印刷
製本　豊文社

ISBN4-89063-173-9

はじめに

「特殊部隊」という言葉を聞いた時に、「強靭な体力を持ち、いろいろな武器や装備を駆使して、少数で困難な任務を遂行するエリート部隊」という印象と同時に、「密かに暗殺や破壊工作を行なう闇の部隊」という印象も浮かぶ人も少なくないであろう。これは特殊部隊にまつわる秘密性に由来するものと思われる。

敵の背後に潜入し、情報を集め、時には戦略的な変化をもたらすような攻撃作戦を少数の人間で行なう特殊部隊は、歴史上、人類の戦いのほとんどあらゆる場面で存在した。また平時においても、「密かに」情報を集め、予想される危険や障害を事前に、これも「密かに」排除するために、少数の「特殊な」人間が活用されてもきた。

特殊部隊という専門の部隊を常設していなくても、ある任務に対して特殊な技能や知識を持つ人

特殊部隊にはその秘密性にまつわる誘拐や暗殺、破壊活動などの負のイメージもつきまとうが、21世紀に予想される脅威に対しては特殊部隊の役割が大きくなると考えられている。［Motorola］

間を臨時に集め、訓練し、作戦に投入する必要性はいろいろな局面で生まれてきたであろうことは想像に難くない。第一次、第二次世界大戦のような大規模で長期間にわたる戦いが起こった場合には、このような特殊能力を持つ部隊が定常的に組織、配備されるようになる。

しかし、その戦いが終わり、平和な時代が来ると、特殊部隊を維持しておく必要性が薄れて解隊されるというのがこれまでの一般的な傾向であった。米国でも第二次世界大戦後、軍に特殊（作戦）部隊を復活させる必要性を感じたのは一〇年にわたって介入したベトナム戦争の時であった。その後一時的に特殊部隊は解隊されるか非常に規模が縮小されたが、イラン革命にともなうテヘランの米大使館員拘束事件などが発生して、再び「特殊任務」に投入できる部隊の必要性が認識され、以後、かなりな規模の特殊部隊を正規編制として維持するようになっている。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.c

これに対してソ連は特殊部隊の役割を重視して、きわめて大きな規模の部隊を維持し、専用の装備を開発してきた。冷戦が終結し、ソ連邦が崩壊した後も、ロシアや旧ソ連邦構成国の多くは、なおも相当規模の特殊部隊を維持してきている。

もっとも「特殊部隊とは何か」という定義は曖昧で、警察や治安組織の武装強襲部隊、人質救出部隊、あるいは沿岸警備隊や国境警備隊の船舶臨検部隊、国境・監視偵察部隊なども特殊部隊と呼ばれる場合が少なくない。

「特殊部隊」の確立した定義はなく、また各国も軍隊、警察、治安組織、国境警備隊、沿岸警備隊などがそれぞれ正面に出る正規部隊とは異なる特殊任務用の組織である「特殊部隊」を擁している。写真はシンガポール沿岸警備隊の特殊部隊。
［海上保安庁］

実際、これらの部隊には、通常の部隊では技術的に、あるいは装備の面から実施できないような任務を遂行できる能力がある。そうした任務をこなせる特殊部隊の隊員は、やはり特殊なエリートと呼ぶことができよう。

逆に言えば、そのような能力や装備を必要とする状況はそう多く出現しないので、少数の勢力でもよいということになる。また別の見地からは、そのような特殊な技術を持つ隊員を多数養成するのは大変である

2001年9月11日の米国における同時多発テロ事件以後、テロを行なったと見られるアル・カイダに聖域を提供していたアフガニスタンのタリバン政権を倒すために、米国は反タリバン武装勢力と米特殊作戦部隊を連携させるという方式を実施した。［U.S. Army］

し、特殊な装備を数多く揃えるのは財政的に不可能だから、少数の部隊にその特殊な能力を与えているとも言える。

さらには特殊部隊に期待される能力、任務は、少人数で遂行されなければならないから、特殊部隊は少数の特殊な存在なのだという表現もできよう。たとえば偵察活動は元来、少数の人間が密かに行なうものであり、敵陣の背後に潜入しての偵察任務はもっと少ない数で行なわねばならない。存在を探知されては意味がないからである。

しかし、少数で任務を遂行する特殊部隊であっても、軍隊や治安組織が持つ特殊部隊の全勢力も少数でよいかというと、最近、大きな変化が生まれてきた。その典型が二〇〇一年九月一一日に米国で起こった同時多発テロ事件の結果として実施された、同年一〇月からのアフガニスタンにおける軍事作戦、米国の作戦名でいう「不朽の自由（エンデュアリング・フリーダム:Enduring Freedom）」作戦である。

同時多発テロがオサマ・ビン・ラディンを指導者とするイスラム原理主義組織アル・カイダによって実施された点に関しては、ほぼ疑いがないとされ、その根拠地とされたアフガニスタンのタリバン支配地域に対する攻撃作戦が開始された。この作戦の目的は、テロ組織のアル・カイダ要員を拿捕、ないしは殺害して、アフガニスタンとその周辺から一掃することと、アル・カイダを受け入れてきたタリバン政権を打倒して、アル・カイダの聖域を消滅させることにあった。

アフガニスタン作戦で米特殊作戦部隊は、反タリバン武装勢力を結集、連携させて北部同盟軍とし、彼らに対する軍事訓練や火力支援を行なうことでタリバン政権を崩壊に追い込んだ。［U.S. Army］

タリバンはアフガニスタン全土を支配していたわけではなく、北部には反タリバンの武装勢力がいたから、仮に米軍を投入してタリバン政権を打倒しても、この反タリバン勢力との関係が問題になる。またアフガニスタンの地理的条件を考えると、ここに大規模な米軍部隊を投入するのはきわめて困難である。そこで、少数の米軍特殊作戦部隊をアフガニスタンに投入し、北部の反タリバン勢力を連携させてタリバン政権打倒の実質的役割を担ってもらい、米軍は航空戦力での火力支援を行なう方式がとられることになった。

そのためには現地の状況を把握し、反タリバン

正規軍部隊を投入すると兵站補給支援も大規模になり、遠距離への正規軍兵力投入は難しい。またアフガニスタンのような地に大規模な米軍部隊を投入すると、政治的に大きな問題を生じる可能性があり、特殊作戦部隊に期待するしか他に方法はなかった。写真はアフガニスタンのカンダハル空港における米空軍のC-130H輸送機。［USAF］

勢力と接触し、それらの勢力を連携させるための仲介の労をとらねばならない。まずＣＩＡ（米中央情報局）の「特殊部隊」が現地に潜入して情報収集や反タリバン勢力との接触を行ない、続いて米軍特殊作戦部隊が進出して、反タリバン勢力への武器の提供、訓練、反タリバン勢力に同行しながら、米軍航空戦力に対する攻撃目標を指示するなどの任務に当たった。

のちには米陸軍の第10山岳師団や第１０１空挺師団といった通常軍部隊も投入されたが、これらの通常軍部隊にも米空軍の戦闘航空統制員という近接航空支援を誘導する「特殊作戦部隊員」が同行し、撃墜されたり事故で不時着したりした航空機の乗員の救出や、負傷兵の救出には、戦闘捜索救難チームという特殊作戦部隊が重要な役割を果たしている。

大規模な通常軍部隊を投入すると、兵站補給支援も非常に大規模になり、したがって遠距離、とくに

海岸部から遠く離れた場所への投入は難しいが、少数の特殊部隊なら兵站補給も小規模ですむ。本文で述べるように、特殊部隊の作戦にはまた特殊な兵站補給が必要になるのだが、通常軍部隊に比べると、量的な規模が非常に小さくてよいのは事実である。この小規模な特殊部隊の投入ということは、また世界の目に「露出する」度合を少なくでき、時には全く密かに作戦を実施できるということだから、政治的に微妙な状況での作戦には都合がよい。アフガニスタンの地に大規模な米軍通常部隊を投入するのは、たとえそれが地理的、物理的に可能であったとしても、ロシアの下腹であり、中国やアフガニスタン周辺諸国の政治情勢、国民感情を考えると実行は難しかったであろう。

また現地の武装勢力と接触し、協力を得たり連携作戦をとらせたりするには、現地の言葉だけではなく、風俗習慣にも通じていることが必要である。このような要員はそう多くはないし、多くを養成できるものではない。それを本国から遠く離れた場所で、十分な補給支援を得ずに長期間にわたって実施するためにはそれなりの体力が必要であるし、自分の身は自分で守る能力を持たねばならない。

だからといって、すべての特殊部隊の隊員が知力、体力にすぐれた人間である必要はない。そのような人間は元来、数が限られているし、任務や場所、状況によっては強い体力を必要としない場合がある。だいたい一人にすべての能力、役割を期待するのが無理なので、それぞれの専門分野で互いに補完し合いながら任務を遂行すればすむ話である。

現在の特殊部隊員には、単に体力や各種の武器を扱う能力だけではなく、高度な装備を扱える技術やその地域の言語、風俗習慣に通じた専門知識を持つ隊員も必要とされるようになってきた。写真は夜間に衛星通信を行なう米軍特殊作戦部隊員。［USAF］

しかも、現在はいろいろな特殊知識、能力が求められるようになってきた。衛星通信に関する知識と技術、最新兵器に関する知識、なかんずく大量破壊兵器と呼ばれる核・生物・化学兵器に関しての知識、麻薬に関する知識、資金の流れを追うマネーローンダリングの知識などである。このような分野では、高度の専門知識や技術を持った人間が必要になり、一人の人間が片手間に習得できるものではない。

現在の安全保障における脅威の対象も従来の国家の軍隊から国際テロリスト、国際犯罪組織、麻薬組織、大量破壊兵器の地下ネットワークなどに主体が移ってきた。北朝鮮のように、なお大規模な特殊部隊を持つ国家もあり、それが安全保障上、周辺諸国に大きな脅威を与えているという状況もあるが、これはむしろ例外的で、現在、そして予見できる二一世紀の世界では、非国家組織、あるいは九・一一同時多発テロ以前のアフガニスタンのような、まともな国家の形をなしていない、

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.c

いわゆる「破綻国家」が差し迫った現実的脅威になると考えられている。これらの国家や組織に関する情報を収集し、追跡し、潜入し、必要なら殺害や破壊を行なうためには、通常軍とは別の「特殊な能力」を持つ組織が必要である。

さらに破綻国家における紛争で、その国から外国人を脱出させねばならない場合や、非国家組織に自国人が人質に取られてしまい、それを奪還する必要が生じた場合には、通常軍では対応できない場合が少なくない。これらの任務に備えた、あるいはその能力を持つ専門部隊が必要になる。

21世紀の世界では、地域紛争やある国の統治能力の破綻から、多くの在留外国人を脱出させる状況が生じると予想される。そのような任務にも、特殊部隊の投入が必要になるであろう。［DoD］

このようなことから、これからの世界では「特殊部隊」の重要性が増大すると予想される。

二一世紀の特殊部隊にはどのような任務が想定され、またどのような能力が必要とされ、その組織と訓練にはどのような事をしておかねばならないかをいくつかの例をもとに考察したのが上巻である。

特殊部隊には正規軍部隊と異なる装備が必要とされる場合があり、そのために専用の装備が開発されることもあるが、また民需製品を応用する柔軟性も要求される。写真はMH-6特殊作戦用ヘリコプターに乗って移動する米陸軍特殊作戦部隊。［U.S. Army］

そして特殊部隊にはまた特殊な装備が必要とされる場合が多い。特殊部隊用装備は必ずしも専用の装備である必要はないが、任務に応じて必要な装備を駆使できる運用体系と訓練内容の柔軟性が必要とされる。特殊部隊が使用しているすべての装備を紹介するのは、もとより不可能であるが、いくつかを例示することによって、どのような装備を調達すべきかの参考になるであろう。これを下巻に記した。

本書執筆にあたって使用した資料の整理、準備、また本書に掲載した図版の準備作業はほとんどが妻、裕美子の尽力になるものである。彼女の助けなくして本書は生まれ得なかった。この紙面を借りて紹介させていただくと共に、著者として感謝の意を表わしたいと思う。

二〇〇四年五月三一日

江畑謙介

上巻目次

はじめに　1

第1章　21世紀の特殊部隊とその任務

イラク戦争が喚起した特殊部隊の重要性　20
特殊部隊がクローズアップされたアフガニスタン作戦　24
冷戦時代の特殊部隊　27
冷戦後の特殊部隊　31
特殊作戦と特殊部隊の性格　34
冷戦後の世界における特殊部隊の役割　38
対テロ作戦と情報　43
特殊部隊の秘密性にまつわる負の要素　47
特殊部隊の運用と統括組織　49
特殊部隊に対する兵站補給　53
特殊部隊と心理作戦　57

電波媒体とインターネット　62
インフォメーション・オペレーションズと心理作戦　66
アフガニスタンにおける心理作戦　70
イラク戦争の戦略的心理作戦　74
イラク戦争に向けての心理作戦　78
大量破壊兵器の使用を防ぐために　81
イラク戦争の心理作戦　84
「衝撃と畏怖」作戦と戦後のイラク　87
新しい心理作戦用技術　92
イラク戦争における米特殊作戦部隊―フセイン大統領捕獲作戦　95
イラク戦争における特殊部隊―新しい運用法　97
米陸軍特殊作戦部隊の強化と改編　102

第2章　近接航空支援と特殊部隊

姿を現した米空軍特殊作戦部隊　106
ＰＪ・戦闘気象観測員・ＣＣＴ　109
米空軍特別戦術部隊　114

再度脚光を浴びる近接航空支援　118
対空火器の発達と近接航空支援　120
米国防総省の近接航空支援研究　123
前線航空統制員の訓練　125
近接航空支援用兵器　131
近接航空支援用航空機と装備　137
前線航空統制用機　143
オペレーション・アナコンダ　145
戦術の転換と近接航空支援　149
不満をぶちまけた第10山岳師団長　154
米空軍の言い分と指揮統制上の問題　157
近接航空支援の歴史　160
米海兵隊の方式　162
近接航空支援用通信装備　168
イリジウム衛星の応用　170
アフガニスタン作戦の教訓　173
陸軍独自のＣＡＳ機保有構想　176
近接航空支援におけるＧＰＳ誘導爆弾の限界と改善　180
ＧＰＳ誘導爆弾の改良　182
英空・海軍の精密誘導爆弾調達計画　185

自衛隊の近接航空支援機　189
日本の防衛と近接航空支援　192

第3章　戦闘捜索救難作戦と特殊部隊

戦闘捜索救難部隊と特殊部隊　200
米軍のCSAR部隊　203
米海軍のCSAR部隊と使用機　205
戦略的CSARと統合作戦における特殊部隊との関係　209
各国合同作戦におけるCSAR　212
NATOとイギリスの例　215
ボスニアの救出作戦と米海兵隊　219
オグレディ大尉救出作戦　223
米海兵隊TRAPチーム　228
オグレディ大尉救出　232
オグレディ大尉救出作戦の批判と教訓　235
米空軍内のCSAR役割区分問題　241
米空軍の動揺　246

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.c